2014.6.1/Vol.72

十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第72号

1960～ カナダ・バンクーバー新渡戸記念庭園　Nitobe Memorial Garden, Vancouver, BC, Canada　1999.5.1 佐藤幸一氏撮影

a

b

c

d

e

f

g

稲造がむすぶ絆 ～カナダ・バンクーバー「新渡戸記念庭園」と十和田の交流

新渡戸記念庭園（Nitobe Memorial Garden）はカナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学（UBC）キャンパス内にあり、同大学のボタニカルガーデンの一部を構成しています。1933年に世界の平和を訴えつつ同州ビクトリアで客死した新渡戸稲造を記念して造られました。この庭園を含むUBCボタニカルガーデン園長パトリック・ルイス氏をはじめ、庭園スタッフ、ボランティアの方々など17名が、2014年５月10日(土)新渡戸記念庭園主催ツアーで来館されました。ご一行は記念館と太素塚（庭）を散策され、新渡戸稲造の「武士道」の原点となった当地の三本木原開拓の歴史について学ばれるとともに、当館ボランティア Kyosokyodo（共創郷土）メンバーの協力で「ばおり」や江戸時代装束「太素行列衣装」の体験、稲生川の恵みの米を使った日本酒の試飲などを体験しました。昨年には同園学芸員杉山龍氏が来館され、稲造のご縁で、バンクーバー新渡戸庭園との交流が深まっています。

パトリック・ルイス園長とともに

裃の衣装を体験する園長

ばおりもとてもお似合いでした

衣装を着けて、マス酒を片手にハイチーズ！

←a～i は各写真の撮影ポイント

新渡戸記念庭園 Nitobe Memorial Garden

h

1935年日本とカナダの友好協会から稲造を記念して送られた灯ろう（左地図★）を中心に小さな日本庭園が造られましたが、大学寮の建設を契機に取り壊され、規模を拡大して 1960年に現在地に完成。設計は造園家森歓之助氏で、1993年桝野俊明氏による大規模改修を経て現在の姿になっています。純日本庭園で、北米の日本庭園の中で高く評価されています。庭園でもUBC植物園のボランティア団体 the Friends of the Garden（通称 FOGs）が重要な役割を果たしており、庭園のツアーガイドや各種イベントサポートに加えガーデンショップの運営も積極的に行い、数千もの植物を育てて販売しています。庭園の図書、植物標本の整理など活動は多岐にわたり庭園を力強くサポートしています。

i

UBC新渡戸記念庭園　www.botanicalgarden.ubc.ca/nitobe
同園ボランティア　www.botanicalgarden.ubc.ca/friends-of-the-garden
（上2枚の写真は2009年吉良昌也氏撮影）

EVENT　開催報告

稲生川上水156年記念

太素祭（たいそさい）

2014年5月3日（土）～5日（月）

［共催：(一社)十和田市観光協会・十和田市・十和田商工会議所・太素顕彰会］

太素例祭

稲生大権現の奉納

太素ウォーク版クイズに挑戦

三本木高校吹奏楽恒例の楽しい演出

初出演のバトンチーム アリエス

新渡戸傳翁をはじめ開拓の先人たちの偉業をしのび稲生川上水156年記念・太素祭を行いました。３日17:00～前夜祭、上水記念日４日9:30～太素例祭で太素塚墓前に多くの参拝者が献花を行い、例祭では館長が継承者となり３年目の稲生大権現奉納を、晴山獅子舞保存会（佐々木秀美会長）のご協力で行いました。３日の「太素ウォーク2014」は好天の中、約150名が稲生川の流路をたどり、歴史を肌で感じつつ汗を流した後、十鉄懐かしの「駅そば」を味わいました。３・４日のステージではＲＡＢラジオ公開録音・太素祭カラオケ選手権大会、北園小学校・十和田中学校・三本木高校の吹奏楽演奏、水神雷太鼓、まつりびと轟（たつな）太鼓演奏、十月会琴演奏、大正琴発表、民俗芸能発表会、バトントワリング、演歌、ものまねショーなど今年も200人以上の出演者による様々なイベントが訪れた方々を楽しませました。記念館は３～５日市外の方へ無料開放し、今年は選奨土木遺産登録にちなむ「クイズ大会・ニトちゃん検定～穴堰のなぞを追え！～」「稲生川の土木技術展」や「ふるさと見本市」を行い、太素ウォーク版クイズ、ステージでの○×クイズでも楽しく稲生川の歴史に親しんでもらいました。稲生川の誕生を祝う太素祭には、昔から参拝とともに歌や踊りの舞台や催し、出店の賑わいがあります。本来「祭」とは、自然の恵みに対する祈願と感謝のため供物を捧げ、賑やかな歌舞音曲で神霊を慰める祈りの儀式と言われ、権現舞奉納もその現れの一つで、集まった人々が共に楽しむこと自体が、稲生川の恵みと先人に感謝する「祭」の大切な要素と言えます。今年は気温も暖かく好天に恵まれ、稲生川上水という町の発展の始まりを、地域の皆さまと、賑やかにお祝いすることができ、心から嬉しく感じました。

稲生川上水156年太素祭　地域博物館企画

未来遺産十和田　ふるさと見本市　とわだ手仕事編

十和田の手仕事コーナー

海外の手仕事コーナー

展示期間：2014年5月3日（土）～6月29日（日）
主催：十和田市立新渡戸記念館　協力：「太素の水」保全と活用連合協議会
企画・構成：Kyosokyodo（共創郷土）

毎年太素祭にあわせ、ふるさとへの思いを大切に、地域に根ざし活動する市民とともに、十和田市内の地域活動や地域のオリジナリティあふれる物産を紹介する「未来遺産十和田ふるさと見本市」を開催しています。本年は地域に古くから伝えられてきた『手仕事』を中心テーマに、市内の手仕事の伝承活動を、物産などとともに紹介する見本市としました。今回、国際的視点を持って農村地域の問題にも取り組んだ農学者・新渡戸稲造の姿勢に学び、手仕事に関わる海外の取組事例も２件ご紹介しました。この見本市を通して、国は違っても変わらない、ふるさとの文化を大切に思う心と活動を知っていただき、グローカルな活動展開のヒントにしていただければ幸いです。

◆紹介したおもな手仕事◆　（十和田市内の取り組み）こぎんざしの活動★南部裂織の活動★きみがらスリッパの活動★バオリの保存活動★むらさき染めの保存研究活動　（海外の取り組み）アフガニスタンの刺繍手織りフェアトレード活動★ルワンダのバナナ・エコ・ペーパーの取り組み

■個人協力（順不同）岩間千鶴子氏／沢口駅三夫氏／小笠原カオル氏／竹ケ原トミ氏／赤城ミチ氏　■団体協力（敬称略・順不同）十和田市農林部とわだ産品販売戦略課「とわだ米粉ROAD プロジェクト」「おいしい十和田キッズソムリエ」／十和田おいらせ農業協同組合／道の駅とわだ・とわだぴあ／(株)パワフルジャパン十和田／(特)十和田NPO子どもセンター・ハピたの／十和田バラ焼きゼミナール／十和田乗馬倶楽部／十和田市きみがらスリッパ生産組合／十和田むらさき保存研究会／南部裂織保存会／十和田ふるさとガイドネットワーク／十和田市文化財保護協会／一本木沢ビオトープ協議会／稲生川せせらぎ活動委員会／ Kyosokyodo共創郷土／「太素の水」保全と活用連合協議会／シルクロードバーミヤンハンディークラフト社／ NPOハーベストタイム　ほか関係各位

※ご紹介した取り組みは、時間的な制限やこちらの認識不足でごく一部に留まっているものと存じます。
　ご紹介すべき取り組みがありましたら、展示期間中いつでも結構ですので、お知らせいただければ幸いです。

どちらも廃物を利用！　発見！

きみがらスリッパと バナナ・エコ・ペーパー

きみがらスリッパは、十和田が馬産地で、馬の飼料用デントコーンの皮がいつも大量に捨てられていたのを活用してスリッパをつくったもの。ルワンダのバナナ・エコ・ペーパーはバナナの産地でバナナの茎が大量に捨てられていたので、新たに日本の紙すき技術を導入し、その繊維を活用して紙をつくったもの。どちらも廃物を利用し、地元の産業としようとしたところが同じです。

土木学会　選奨土木遺産登録記念

稲生川の土木技術 展

展示期間:2014年5月3日(土)～10月31日(金)　※9月から展示を拡張して開催

2013年10月「三本木原開拓施設群－稲生川穴堰、十和田市市街地－」として、(公社)土木学会の「選奨土木遺産」に登録されたことを記念し、開拓施設群の主な構成要素「稲生川穴堰（トンネル水路）」などが、どのような技術で掘削されたのか、掘削に携わった「南部土方衆」の他地域での活躍などをご紹介しました。高度な機器、重機が無い当時の資材的、労力的制限の中で、先人たちが非常な合理性を持って編み出した最高水準の土木工法を、実際の資料とともにご覧ください。

展示資料から

稲生川工事技術者の頭取 吉助が手掛けた 仙台藩四谷堰改修工事絵図

『宮城国分丼御城下入合用水四ツ谷江通之内 放山裏御掘替新潜穴絵図面』（当館蔵）
サイズ：79.0×348.0(cm)　年代：嘉永元年(1848)

稲生川工事の技術者集団・南部土方衆は南部盛岡藩のみならず、伊達仙台藩領でも評価が高く、当館には幕末の土方衆頭取・吉助(1786－1859)が手掛けた仙台藩四谷堰「放山潜穴（はなれやまくぐりあな）」改修工事の絵図が残っています。潜穴とは仙台藩での穴堰の呼称です。広瀬川から取水する四谷堰は1627年(寛永4年)から1629年(寛永6年)にかけて四谷堰普請奉行・宇津志惣兵衛が完成させ、現在4本の潜穴があります。内一本の放山潜穴の掘り替え工事に、吉助は携わり、1847年(弘化4年)～1848年(嘉永元年)の内、9か月で潜穴(本坑)と煙出（けむだし）(斜坑)、水抜き用放水路、合計352間(633m)を掘削しました。この地域は仙台城築城の折、石垣の石材を切りだした三滝安山岩の分布地域です。絵図には硬い大石を避けて、所々ルート変更しつつ掘削した様子が描かれ、手作業による当時のトンネル工事の苦労を物語ります。

太素の水プロジェクト

「選奨土木遺産登録記念事業」を開催します！

主催：同シンポジウム実行委員会

稲生川天狗山穴堰（トンネル水路）

（公社）土木学会・選奨土木遺産登録証授与式とともに、シンポジウム、稲生川DVD制作、現地見学会等の記念事業を予定。

■未来に伝える三本木原開拓シンポジウム開催

◆日時：2014年10月25日（土）授与式・シンポジウム（後 祝賀会）
10月26日（日）稲生川現地見学会
◆シンポジウム会場：富士屋グランドホール

■稲生川と三本木原開拓の歴史を未来に伝える記念DVD制作

幕末から現在まで、稲生川と十和田市の都市計画も含めた三本木原開拓の歴史紹介DVDを制作。

お問い合わせは：三本木原開拓シンポジウム事務局　八戸工業大学工学部土木建築工学科（担当 阿波教授）TEL&FAX 0178-25-8058　e-mail aba@hi-tech.ac.jp
十和田市立新渡戸記念館（担当 角田）TEL&FAX 0176-23-4430　e-mail nitobemm@hi-net.ne.jp

太素の水プロジェクト連携事業

未来遺産・太素の水バレエ公演　～柊（ひいらぎ）Dance＆Ballet～

作品「太素の水プロジェクト」

◆日時：2014年8月3日（日）開場12:30　開演13:00　◆会場：十和田市民文化センター 大ホール

【助成：（公財）青森県国際交流協会／平成26年度民間国際活動団体助成事業】
【後援：（公財）青森県国際交流協会／十和田市教育委員会／（公社）日本ユネスコ協会連盟／「太素の水」保全と活用連合協議会／（一財）東奥日報文化財団／東奥日報社／デーリー東北新聞社】

太素の水プロジェクトに賛同する地域のバレエ団「柊Dance&Ballet」（主宰・上野智子氏）では、地域の歴史、文化を守り伝える新たな試みとして、第５回定期発表会第二部に～100年後に遺したいふるさと、日本の心、そして子供たちの未来～をテーマにしたバレエ作品「太素の水プロジェクト」を上演します。この作品に対し、「太素の水」保全と活用連合協議会は、（公社）日本ユネスコ協会連盟とともに後援団体に名前を連ね、音楽学博士である新渡戸常憲会長は音楽監修を手掛けました。また、新渡戸会長と親交のある太鼓表現師・時勝矢一路氏をはじめとする和太鼓奏者の方々がゲスト出演し、「日本の心」を表現します。作品を舞う生徒の方々は、度々記念館や稲生川を見学し、稲生川の歴史、文化、新渡戸稲造の武士道精神につながる、開拓の先人たちの「公に尽くす志」についても理解を深めていました。命の水がはぐくむ現在の美しい自然、文化に感謝の心を持って、100年後も変わらぬふるさとであるようにとの祈りを込めたバレエ作品ですので、ぜひお誘いあわせの上ご覧ください。

特別ゲストに有名な太鼓表現師
時勝矢一路氏 出演!!

太鼓表現師　時勝矢 一路 氏
「大阪交響楽団」退団後、「鬼太鼓座（おんでこざ）」でリーダーとなる。独立後、「JDO一路」を主宰。世界各地で公演。02年ソリスト活動後、国内外オケと共演多数。映画音楽等、作曲家としても活躍。NHK「おしゃれ工房」に和太鼓・講師で出演。

■太素の水プロジェクト　活動報告

平成25年度 元気な十和田市づくり市民活動支援事業として以下に取り組みました

Kyosokyodo(共創郷土) 作成　稲生川ガイド冊子

『稲生川の魅力を歩く』大好評！

稲生川に関わる多くの団体個人の協力を得て“160年の歴史と文化のルーツを楽しく歩きながら学べる本”をKyosokyodo（共創郷土）が編集発行しました。図や写真をふんだんに入れ、平成24年度発行した稲生川ウォーキングマップも折り込まれています。地方から世界へ、過去から未来へとつながる視点で編集した一冊。

冊子のお問い合わせは Kyosokyodo（共創郷土）事務局
Tel 0176-23-4430　info@kyosokyodo.jp

「太素の水」保全と活用連合協議会

『太素の水サイト』充実リニューアル！

www.taisonomizu.jp

市民メンバーの協力を得て旧サイトの内容を整理拡充しました。特に年表は、三本木原開拓と新渡戸稲造の略歴という２つのラインを追いながら、年代区分で切り替える形式として、画像を多く収録し、稲生川マップ各ポイントの詳細情報も掲載。

稲生川ガイド冊子は（公社）日本ユネスコ協会連盟のホームページでも紹介されました
プロジェクト未来遺産　活動便り 2014-part1　www.unesco.or.jp/mirai/news/2014/

■太素の水プロジェクト 今後の活動

平成26年度 元気な十和田市づくり市民活動支援事業

Kyosokyodo(共創郷土)　市民共創の地域ブランドづくり
～稲生川の恵みの米×コシノジュンコの出会いで目指せ！夢の地域ブランド～

未来遺産登録となった稲生川を市民の財産として育み、未来遺産運動を広く地域全体に展開する活動として、開拓の歴史と「武士道」を活かした地域ブランドづくりの支援に取り組みます。

稲生川の初穂にちなみ付けられた名前とともに武士道精神を祖父や父、兄から受け継いだ新渡戸稲造

稲生川の恵みで育つ十和田の米

「太素の水」保全と活用連合協議会
地域連携による稲生川見学環境整備事業～稲生川解説看板と稲生川DVDの制作～

稲生川見学環境整備として、川沿いの解説看板を、これまで看板を設置されている各団体と連携を取りながら、取水口から一本木沢ビオトープまで一貫した内容で設置します。選奨土木遺産記念・稲生川DVD制作もその一環で取り組みます。

太素の水プロジェクトのお問い合わせ：「太素の水」保全と活用連合協議会 事務局 ℡0176－23－4430（新渡戸記念館内）

平成25年度 新渡戸塾

Kyosokyodo（共創郷土）協力

講演会『十和田市農業発展の歴史と未来への展望』

講師：北里大学 小林裕志 名誉教授

お話しする小林先生

■日時：2014年３月15日（土）14:00～15:00　■場所：新渡戸記念館

三本木原開拓を中心に、十和田市の農業が自然的地理的条件や歴史の流れの中でいかに発展してきたか、また、現在の社会情勢の変化の中でどのような方向に向かうべきかなど、ご専門の立場からお話いただきました。十和田市農業の展望として「農を軸とした循環型の十和田市農業」を提言いただき、地場産品による学校給食と、その残飯を使ったバイオマス事業の仕組みを紹介下さいました。参加者からは“命の循環の視点から、経済面だけでない地産地消の本来的意味に気付かされた”“未来からのメッセージと感じた”といった感想が寄せられました。

太素の水プロジェクト　今後のスケジュール

※予定には変更の場合がありますので各団体事務局にご確認下さい

一本木沢ビオトープ協議会 主催『親自然体験』

■7月19日(土)　ナイトハイク・ホタル観察会
■8月2日(土)　ザリガニつり大会
■9月27日(土)　トンボ観察会

一本木沢ビオトープ協議会事務局：十和田市東公民館　Tel 0176−24−9000　Fax 9003

稲生川せせらぎ活動委員会 主催『稲生川美化＆交流活動』

■稲生川ふれあい公園・せせらぎ水路植栽活動（およそ月1回）
■8月23日(土)　稲生川ふれあい祭り

稲生川せせらぎ活動委員会事務局：水土里ネット稲生川　Tel 0176−23−5066　Fax 3940

Kyosokyodo（共創郷土）協力「新渡戸塾」 ※詳細は右を参照

Kyosokyodo事務局：新渡戸記念館　Tel・Fax 0176−23−4430

「太素の水」保全と活用連合協議会　事務局
十和田市立新渡戸記念館 Tel・Fax0176-23-4430
http://taisonomizu.jp/

未来遺産運動

mini NEWS

太素塚清掃奉仕

・5月6日（火）さわやかクラブ様
・5月7日（水）十和田市老人クラブ大学通り老成会様
・毎月27日Kyosokyodo（共創郷土）メンバーの皆様

ありがとうございました

関連情報

▶国際ソロプチミスト十和田が当館ボランティア Kyosokyodo（共創郷土）を表彰

当館ボランティアKyosokyodo(共創郷土)が、国際ソロプチミスト十和田より活動を評価され、2014年4月16日(水)十和田富士屋ホテルで国際ソロプチミスト十和田クラブ賞の贈呈を受けました。

▶日本三大開拓地交流で川南町、矢吹町の小学生が来館

2014年2月1日(土)『日本三大開拓地交流』のため宮崎県川南町、福島県矢吹町の小学生と十和田市の小中学生あわせて60名が当館に訪れ、三本木原開拓の歴史を見学しました。子供たちはもっこやばんづるを使った開拓工事体験を一緒に行い、開拓の先人たちの苦労を感じていました。『日本三大開拓地交流』は大規模国営開拓事業によって発展したという歴史的な共通点から三市町の交流が始まり、2002年10月に矢吹町で「日本三大開拓地サミット」を開催しました。現在は年1回それぞれの地域へ交流団が訪問しています。

▶「疏水のある風景写真コンテスト」で佐藤幸一氏が優秀賞

平成25年度「疏水のある風景写真コンテスト」(全国水土里ネット 主催) へ佐藤幸一氏（「太素の水」保全と活用連合協議会 理事/一本木沢ビオトープ協議会 副会長）が応募した「稲生川の灯ろう流し」がみごと優秀賞を受賞し、昨年の入賞に引き続き二年連続の快挙となりました。

受賞作品「稲生川の灯ろう流し」

▶デーリー東北"私見創見"に当館ボランティアKyosokyodo（共創郷土）新渡戸富恵会長が寄稿

全国で地域再生に取り組む方々と「地宝人ネット」等での意見交換も行っています。

【デーリー記事掲載日とタイトル】
3月3日(月) アート通じ考える平和／銃を鍬に
4月7日(月) 譲り合い共存の道探れ／世界が白神に学ぶこと
5月19日(月) 利害超えた道しるべ示せ／歴史に学ぶリーダ像
【地・宝・人ネットアドレス　www.47news.jp/localnews/chiikisaisei/】

平成26年度 新渡戸記念館スケジュール

新渡戸塾　こども講座 寺子屋稲生塾 十和田市教育委員会 共催
Kyosokyodo（共創郷土）協力

全体テーマ　**選奨土木遺産「稲生川」に学ぶ**

■展示・イベント

5月　　「太素祭クイズ大会　ー穴堰のなぞを追えー」済
5～6月「未来遺産十和田ふるさと見本市ー手仕事編ー」
5～10月「選奨土木遺産　稲生川の土木技術」展
11～3月 特別企画「とわだ・会津めぐり～新渡戸家と会津～」展

■講演・体験・交流プログラム

新渡戸塾講座の詳細は市広報か新渡戸記念館ホームページをご覧下さい
www.towada.or.jp/nitobe

【一般講座】
稲生川の土木技術について 10月～2015年3月

【実践プロジェクト】
★三本木原開拓と「武士道」を活かした地域ブランドづくり
★稲生川の見学環境整備

【こども講座】寺子屋・稲生塾　稲生塾卒業生の参加も大歓迎！

❶6月21日(土) 武士道白熱教室～こども武士道の先生と話し合おう～
❷7月5日(土) 開拓ゆかりの行灯づくり
❸7月26･27日(土･日) まち探検「とわだ時空調査隊」～十鉄の歴史～
❹8月9日(土) 世界と友だちpart4～アルゼンチンの文化体験～
❺8月30日(土) 太素の森の開拓村～おはなし会と昔のおやつ体験～
❻11月29日(土) 書の心は武士道の心～書道･茶道体験～

【稲生塾の申し込み】◆対象：小学校4～6年生　◆定員：40名　◆申し込み締め切り:6月9日(月)　◆申し込み方法:学校の先生へ→教育委員会スポーツ・生涯学習課（Tel72-2313　Fax72-3123）本人（保護者）が直接申し込み→十和田市立新渡戸記念館（Tel・Fax23-4430）

活動報告

▶平成26年度第1回太素顕彰会定期総会を開催

2014年4月25日(金)10:30から十和田商工会館5階会議室で開催し、平成26年度事業計画及び予算案を審議の上、原案通り可決しました。

▶館長講演会

2014年2月4日(火)十和田市立三本木中学校2年「立志式」(演題：新渡戸家の精神と稲造博士の武士道精神)※新渡戸塾モデルスクール事業　2月25日(火)三戸教育振興会（南部町分庁舎 / 演題：「武士道」に著した日本人の心） 4月24日(木)新郷村教育大会（新郷村山村開発センター/演題：新渡戸家の精神と稲造博士の武士道精神）

▶「DJ小中学生新聞」に当館小笠原書記が連載中

デーリー東北「DJ小中学生新聞」（毎週日曜折り込み）に当館小笠原書記が「十和田・三本木原開拓～オガザムライの歴史紙しばい道場～」を 2014年2月23日(日)から連載開始。当館ボランティアKyosokyodo（共創郷土）制作の歴史民話紙しばいを中心に、三本木原開拓の歴史や新渡戸稲造のエピソードについて執筆しています。

▶2014年2月22日（土）青森県立美術館「平成25年度県民のための美術館づくり懇話会」副委員長に館長が就任し、第2回懇話会に出席。

▶音楽学博士・音楽評論家として館長が活躍

2014年2月8日(土)～9日(日)日本ピアノ研究会主催、第5回全日本ジュニアピアノコンクール及びピアノオーディション（会場：杉並公会堂・小ホール）において審査員を務めました。

編集後記

五月も下旬になり、廻る季節の移り変わりの早さにはただ驚くばかり、何気なく窓越しに外の景色を眺めてみると、どういうわけか青年期を過ごした東欧の古い街並みが眼前に現れた。これは夢か果てや幻か。実に風趣な感覚であった。幼少からのヨーロッパへの強い憧れ（夢）は実現された。次なる夢はなんであるか？それは飼育するトルコイシフウキンチョウを現地で見ること。私のエゴで現在我が家にいるが、私とすこぶる相性はいい。原産地はペルーにブラジルとちょっと遠いのだが。夢はさておき、現実の記念館が世界への窓になればと思う。（館長　新渡戸常憲）

トルコイシフウキンチョウ
撮影地 ジュロンバードパーク(シンガポール)

■ご利用案内
・開館時間：午前9:00～午後4:00
・休 館 日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)　年末年始(12/29～1/3)
・観 覧 料：大学生・一般210円（団体180円）
小・中・高校生54円（団体43円）※団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています

世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して
十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum
URL　www.towada.or.jp/nitobe/

発行日　2014年6月1日
編集・発行　太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031　青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax：0176-23-4430
Email：nitobemm@hi-net.ne.jp
印刷　株式会社 岩間印刷